

平成26事業年度
(第 11 期)

決 算 報 告 書

国立大学法人
長岡技術科学大学

平成26年度 決算報告書

国立大学法人 長岡技術科学大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
収入				
運営費交付金	3,968	4,048	80	(注1)
施設整備費補助金	1,822	1,852	30	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	562	651	89	(注3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	33	33	—	
自己収入	1,549	1,542	△7	
授業料、入学金及び検定料収入	1,355	1,345	△10	(注4)
附属病院収入	—	—	—	
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	194	197	3	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	849	913	64	(注6)
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
目的積立金取崩	116	117	1	(注7)
計	8,899	9,156	257	
支出				
業務費	5,633	5,567	△66	(注8)
教育研究経費	5,633	5,567	△66	
診療経費	—	—	—	
施設整備費	1,855	1,885	30	(注9)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	562	651	89	(注10)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	849	803	△46	(注11)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	—	—	—	
国立大学財務・経営センター施設費納付金	—	—	—	
計	8,899	8,906	7	
収入－支出	—	250	250	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、予算段階では予定していなかった国立大学法人の行う教育改善推進枠による事業、学長のリーダーシップの発揮を更に高めるための特別措置枠による事業及び年俸制導入促進費による事業に伴う特別運営費交付金が交付されたことにより、予算金額に比して決算金額が80百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、老朽対策等基盤整備事業の前年度からの繰越額31百万円の増、教育研究力強化基盤整備費の前年度からの繰越額1百万円の減により、予算金額に比して30百万円多額となっています。
- (注3) 補助金収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金の獲得に努めたため、予算金額に比して決算金額が89百万円多額となっています。
- (注4) 授業料、入学金及び検定料収入については、授業料等の在籍者数が予定より減ったため、予算金額に比して決算金額が10百万円少額となっています。
- (注5) 雑収入については、主として、特許実施料収入等の収入増により、予算金額に比して決算金額が3百万円多額となっています。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入については、産学連携等研究収入の前年度繰越額45千円の増及び受託研究の獲得に努めたため、予算金額に比して決算金額が64百万円多額となっています。なお、前年度から繰越額は107百万円です。
- (注7) 目的積立金取崩については、申請を行った平成25年度剰余金における目的積立金が承認されたため、予算金額に比して決算金額が1百万円多額となっています。
- (注8) 教育研究経費については、経費の節減に努めたこと、また、目的積立金取崩における次年度以降の計画額36百万円の支出減等により、予算金額に比して決算金額が66百万円少額となっています。
- (注9) (注2)に示した理由により、予算金額に比して決算金額が30百万円多額となっています。
- (注10) (注3)に示した理由により、予算金額に比して決算金額が89百万円多額となっています。
- (注11) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、一部、翌年度に繰越となったため、予算金額に比して決算金額が46百万円少額となっています。